

夏の 寸 又 峡

22年7月4日

和田 宏

昨日は雨の天気予報が出ていたのに天候が好転したので急に行ってみたくなった、先週waxをかけchainelubricantもやったし準備は出来ていた、9時に始動、バイパスを東へ、上着はワインガードナーのパット入りインナー付き、ブーツとjeansのパンツ、暑いかと心配したが上着の通気性が良く快適である。磐田では4車線化工事が始まっている、恩恵に与りたいものであるが我が年齢を考えるとなんとも言えない。

掛川道の駅で小休止、地元農産物の売り場は何時ものように繁盛している、金谷から大井川右岸の道路(473号線)を北上、家山で八王子NoのBMW数台に行く手を阻まれ暫く雁行、然しEstrellaのエンジンがぐずついできたので見通しが得られる田野口辺りで観光バスを含め10台ばかり抜いて冷却風の流れを良くして寸又峡を目指す、道路は空いていて気持ちよく走れる、千頭から先は、トンネルが3つで変わりなしワインディングロード健在である。11時30分着115kmであった、翠紅苑に荷物を預けて旅館街を散歩、金喜老(当て字御免)事件の資料展示室の案内を発見。

翠紅苑はロビー喫煙OK、食堂無煙、未だ遅れている、ロビーのターコイズ色(カワセミの背中と同じ色)の馬は何度見ても飽きない、しかしフロントの担当者は何も知らない振り？、

蕎麦ご膳1200円は量を心配したが問題なしゆっくり食べて駐車場に隣接の資料館を覗いて13時に帰途に就いた。千頭の手前で朝のBMWグループとすれ違ふ、千頭で休憩したらしい、いなずま1200ともすれ違った、珍しい。また中電の隣にちょっとした機関区を発見、今までどうして気付かなかったのだろう？

362を20km南下したら、おろくぼ、智満寺、大札山の案内板を右折して夜叉が池を目指す、路側帯にマムシ草が目立つワインディングを5km登った所である、コンクリートで固められた小さな池であるが池に張り出た枝にはモリアオガエルの白い卵房と池には無数のオタマジャクシとアカハライモリ、幸いにも山ヒルは強い日照りを避けてお休みらしい、期待したゲンゴローは居ない、何処まで行ったらゲンチャンが居るのか調べてみたい気持ちになる、インターネットで調べてbikeで見に行こう、362号線へ戻って南進、下泉でワインディングかタラタラロードか一瞬迷ったが後者77号線を選択して左へ、年である。

家山では信号を右折すると63号線で大日山、三倉経由森町へ抜ける間道があるがこれもパスして大井川左岸を南進して島田で1号線バイパスに乗って強めの西風に向かって浜松へ、16時に帰着できた。240km燃費は37km/リッター。

快適ではあったが疲れが感じられて悔しい、しかし脊柱管狭さく症のオペを勧められて10年、脊髓破裂骨折を経験して10ヶ月、来週は75歳になる体としては感謝すべき状態だと自らを慰めたい。

今回の写真はないので 2008年のスズカへ行ったときに撮ったものを添付します、すみません。



以上